

日本語(国語) 【小3】 指導カリキュラム

日本語テキスト



ユニット・指導内容・指導単元一覧表

- 1 ユニットの指導モジュール配分は、日本語力のステップに応じて比率を決める。
現在の日本語力レベルと現在の学年の学習内容、1 ユニット・モジュール配分比率は、概ね下記のようにする。

	ステップに応じた指導内容	:	現在の学年学習内容
【S1】	8	:	2
【S2】	7	:	3
【S3】	5	:	5
【S4】	2	:	8

『指導ユニット・モジュール数配分例』

31	:	8 (モジュール数39モジュールの場合)
19	:	8 (モジュール数27モジュールの場合)
9	:	9 (モジュール数18モジュールの場合)
2	:	7 (モジュール数 9モジュールの場合)

日本語(国語)【小3】4月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小3 4月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
よく聞いて、じこしょうかい (話・聞①)	◎相手によく分かるようにはっきり話したり、友達の話をよく聞いたりする。 ★自己紹介をする。
どきん (読①) 擬音語・擬態語	★ 擬声語[ぎせいご]・擬態語[ぎたいご] 【S1】 詩を声に出して読む。 【S2/S3/S4】 擬音語や擬態語を確認する。
どきん 谷川俊太郎 さわってみようかなあ つるつる おしてみようかなあ ゆらゆら もすこしおそうかなあ ぐらぐら もいちどおそうかあ がらがら たおれちゃったよなあ えへへ いんりょくかんじるねえ みしみし ちきゅうはまわってるう ぐいぐい かぜもふいてるよお そよそよ あるきはじめるかあ ひたひた だれかがふりむいた！ どきん ！一強めたり、おどろきなどをあらわしたりするときにつかうことがある。 【新出漢字】 詩 シ 詩を楽しむ	
きつつきの商売 (読⑧、書①) 場面のようす	文末[ぶんまつ]表現[ひょうげん]の響き[ひびき]やリズム、音読。 【S1】 教材文を読む。 【S2/S3/S4】 声の大きさ、速さ、強弱、抑揚、間の取り方 【S2/S3/S4】 場面や登場人物をつかむ。
【語彙・表現】 場面ー物語の中で人物のすることやまわりのようすが、ひとまとまりになっているぶぶん。 登場人物ー物語の場面に出てくる人物のこと かんばんにきざんだお店の名前 おとや 茶色い耳をぴんと立てた野うさぎ 四分音符一こにつき、どれでも百リル ぶな の森 木のてっぺん近くのみき コーン ぶなの木の音 野ねずみの家族 ぶなの木のうろ たちつばすみれの葉っぱの かさ 口々に言いました ター同じ字をかさねるときにつかうしるし。「おとり字」 などという。 ぶなの葉っぱの、シャバシャ バシャバ。 地面からの、パシパシピチピチ。 葉っぱのかさの、パリパリパリ そして、ぶなの森の、ずうっとおくふかくか ら、ドウドウドウ。ザワザワザワ。	

【新出漢字】 面 メン 場面 地面 (おも) (おもて) (つら) 登 トウ 登場人物 ト 登山 のぼる 山に登る 物 ブツ 登場人物 モツ 書物 作物 もの 物語 物音 商 ショウ 商売 (あきなう) 開 カイ 開店 開会 ひらく 店を開く ひらける 道が開ける あく ふたが開く あける ドアを開ける	族 ゾク 家族 親族 葉 ヨウ 落葉 は 葉っぱ 言葉 実 ジツ 実験 み 草の実 みのる かきが実る 所 ショ 場所 ところ 人が多い所 習 シュウ 学習 習字 ならう ピアノを習う 動 ドウ 動物 行動 うごく 電車が動く うごかす 体を動かす
国語辞典のつかい方 (伝国②)	★ 国語辞典[こくごじてん]の使い方 【S2/S3/S4】
【新出漢字】 意 イ 意味 意外 味 ミ 意味 地味 あじ しお味 あじわう 詩を味わう 漢 カン 漢字 調 チョウ 調理 体調 しらべる 言葉を調べる (ととのう) (ととのえる) 由 ユ 由来 ユウ 自由 理由 (ユイ) (よし)	問 モン 問題 学問 どう わけを問う とい 問いに答える とん 問屋 温 オン 温度 気温 あたたか 温かな心 あたたかい 温かいあま酒 あたたまる 体が温まる あたためる 牛乳を温める 酒 シュ 日本酒 さけ あま酒 さか 酒屋
漢字の音と訓 (伝国②) 音読み・訓読み	★ 漢字の音読みと訓読み[くんよみ] 【S1/S2】 漢字の「音」と「訓」の特徴を理解する。 【S3/S4】 漢字の読み方によって意味が分かる場合があることを知る。
朝 (音) チョウ 朝食 早朝 (訓) あさ 朝 朝顔 「チョウ」のような「音」の読み方は、聞いただけでは意味の分かりにくいものが多い。 「あさ」のような「訓」の読み方には、聞いただけで意味の分かるものがたくさんある。 【新出漢字】 次 ジ 次回 目次 (シ) つぐ 問題が相次ぐ つぎ 次の日 表 ヒョウ 発表 表紙 おもて 表とうら あらわす 書き表す あらわれる 顔に表れる 発 ハツ 発音 発表 (ホツ) 主 シュ 主語 主人公 (ス) ぬし もち主 おも 主な登場人物 秒 ビョウ 六十秒 氷 ヒョウ 氷山 流水 こおり 氷がとける (ひ) 農 ノウ 農家 農作物 局 キョク ゆうびん局	
春の楽しみ (書②)	● 春の行事に興味[きょうみ]をもち、春の語句[ごく]を増[ふ]やす。【S1/S2/S3/S4】 ☆生活科
【語彙・表現】 まんかい さくらもち 花ざかり 花見 夜ざくら 花ふぶき 葉ざくら さくら月 こどもの日 こいのぼり せいくらべ まごい ひごい こごい ちまき かしわもち しょうぶゆ	

日本語(国語)【小3】5月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小3 5月 ユニット・指導内容・ステップ															
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7															
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容														
よい聞き手になろう きちんとつたえるために こそあど言葉 (話・聞④、伝国①)	◎ 適切[てきせつ]な言葉遣い[ことばづかい]で筋道[すじみち]を立てて話す。 【S1】 教材文を読む。 【S2/S3/S4】 指示語の働きを理解し、適切に使う。														
こー話し手に近い場合 そー相手に近い場合 あー話し手からも相手からも遠い場合 どーさししめすものがはっきりしない場合 【新出漢字】 <table border="0"> <tr> <td>返 ヘン 返事</td><td>落 ラク 落葉 落下 おちる 葉が落ちる</td></tr> <tr> <td>決 ケツ 決意 決行</td><td>おとす はしを落とす</td></tr> <tr> <td>事 ジ 事実 大事 (ズ) こと 出来事 物事</td><td>着 チャク 着地 着用 (ジャク) きる シャツを着る</td></tr> <tr> <td>配 ハイ 気配 心配 くばる 新聞を配る</td><td>きせる 上着を着せる つく 学校に着く</td></tr> <tr> <td>有 ユウ 有名 所有 (ウ) ある 有る無し</td><td>つける エプロンを着ける</td></tr> <tr> <td>相 ソウ 相談 (ショウ) あい 相手 相づち</td><td>洋 ヨウ 洋服 洋食</td></tr> <tr> <td></td><td>服 フク 洋服</td></tr> </table>		返 ヘン 返事	落 ラク 落葉 落下 おちる 葉が落ちる	決 ケツ 決意 決行	おとす はしを落とす	事 ジ 事実 大事 (ズ) こと 出来事 物事	着 チャク 着地 着用 (ジャク) きる シャツを着る	配 ハイ 気配 心配 くばる 新聞を配る	きせる 上着を着せる つく 学校に着く	有 ユウ 有名 所有 (ウ) ある 有る無し	つける エプロンを着ける	相 ソウ 相談 (ショウ) あい 相手 相づち	洋 ヨウ 洋服 洋食		服 フク 洋服
返 ヘン 返事	落 ラク 落葉 落下 おちる 葉が落ちる														
決 ケツ 決意 決行	おとす はしを落とす														
事 ジ 事実 大事 (ズ) こと 出来事 物事	着 チャク 着地 着用 (ジャク) きる シャツを着る														
配 ハイ 気配 心配 くばる 新聞を配る	きせる 上着を着せる つく 学校に着く														
有 ユウ 有名 所有 (ウ) ある 有る無し	つける エプロンを着ける														
相 ソウ 相談 (ショウ) あい 相手 相づち	洋 ヨウ 洋服 洋食														
	服 フク 洋服														
漢字の広場① (書②)	◎ 2年生までに配当されている漢字を使った文を正しく作ることができる。														
牛 鳴く 高い 強い 弱い 売店 一万円 馬 二頭 時間 多い 少ない 売る 買う 門 羽 広げる 黄色 首 長い 同じ															
言葉で遊ぼう こまを楽しむ (読⑧、書①) 文章構成や段落 しいとり・早口言葉・回文・ アナグラム・しゃれ	文章全体の構成[こうせい] 「段落[だんらく]」－「初め・中・終わり」 【S1】 「言葉で遊ぼう」を読む。 【S2】 三つの言葉遊びを楽しむ。 【S3】 「言葉で遊ぼう」の構成 「段落」とは何か。 文章全体の「問い」 【S4】 「こまを楽しむ」の構成 「初め」「中」「終わり」														
【語彙・表現】 しいとりや早口言葉 段落一組み立てているまとまり。はじめを一字下げて表す。 しゃれ－「ふとんがふっとんだ。」「イクラはいくらだ。」 にた音や同じ音の言葉 回文－「きつつき」や「しんぶんし」「わたしたわしわたしたわ」 アナグラム－「とけい」をならべかえると、「けいと」 「くつつみがき」をならべかえると、「実がつく木」															

【新出漢字】

遊 ユウ 遊園地 (ユ) あそぶ 言葉で遊ぶ
 短 タン 短時間 短所 みじかい 短い言葉
 世 セイ 二十一世紀 セ 世界中 世間 よ 世の中
 界 カイ 世界中
 指 シ 指名 指定
 ゆび 指でつまむ さす 指ししめす
 鉄 テツ 鉄板 鉄分

安 アン 安定 安心 やすい ねだんが安い
 定 テイ 安定 一定 ジョウ 三角定規
 さだめる 時間を定める さだまる 型が定まる
 (さだか)
 様 ヨウ 様子 さま 内田高広様
 章 ショウ 文章

俳句を楽しもう (伝国①)

◎情景を想像し、日本語特有のリズムを感じながら俳句を音読し、文語の調子に親しむ。

【S1】俳句の決まりを知る。

- ・「五・七・五」の十七音で作られている。
- ・季語がある。

【S2/S3/S4】俳句を声に出して読む。

- ・1音ずつ手をたたくなどして、言葉のまとまりや調子、響きを楽しむ。

俳句は、五・七・五の十七音で作られた短い詩です。ふっうは、「季語」という、きせつを表す言葉が入っています。俳句の十七音の中には、しぜんの様子や、そこからかんじられることが表されています。

古池や蛙飛びこむ水の音 松尾芭蕉

ひっそりとしずかな古池に、かえるが飛びこむ水の音が聞こえた。

閑かさや岩にしみ入る蝉の声 松尾芭蕉

なんてしずかなんだらう。その中で、せみの声だけが、まるで岩の中にしみていくように聞こえている。

春の海終日のたりのたかな 与謝蕪村

あたたかな春の日の海は、一日中、のたりのたりとうねっているよ。

菜の花や月は東に日は西に 与謝蕪村

見わたすかぎりの菜の花ばたけ。月は東の空からのぼりはじめ、太陽は西にしずんでいく。

雪とけて村いっばいの子どもかな 小林 一茶

雪がとけて、子どもたちがいっせいに外に出てきて、村中にあふれ返っているよ。

痩せ蛙まけるな一茶これにあり 小林 一茶

そののやせたかえるよ、まけるなよ。一茶がここでおうえんしているぞ。

いろはにほへと ちりぬるを わかよたれそ つねならむ うゐのおくやま けふこえて あさきゆめみし ゑひもせす
 いろは歌

「いろは歌」は、四十七文字のひらがなを一回ずつ使って作られている作品。

今の「あいうえお」のように、むかしは、ひらがなをれんしゅうするための手本として使われていた。

【新出漢字】

品 ヒン 作品 商品 しな 品物 手品

日本語(国語)【小3】6月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小3 6月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
気になる記号 符号など (書⑭) 報告文 記号・符号	句読点[くとうてん]などを適切[てきせつ]に打って書く。 ★ 身の回りにあるマーク 【S1/S2/S3/S4】 色・形・文字・絵などで気がついたことを発表する。
何をつたえるやくわり どんなくふう ・色や形 ・文字や絵 ほうこくする文章で、よく使う書き表し方 ・調べました。 ・分かりました。 ・考えました。 ・気がつきました。 ・－をしめしています。 ・－のようです。 ・－だそうです。 ・－のです。	
符号など 句読点 丸(。)を句点、点□を読点、合わせて句読点といいます。句点は文の終わりに、読点は、文の中の意味の切れ目にうって、文を読みやすくします。 ・父は、銀行に行きました。 ・おや、去年よりねだんが高くなりましたね。 ・毛筆で書くと、気もちが引きしまる。 ・入学式の日も、遠足の日も、晴天だった。	
中点(・) 言葉をならべる場合に使います。 ・タンポポ ・オオバコ ・シロツメクサなど。	
ダッシュ (－) ①せつめいをおぎなう場合 ・辺一図形を作る直線。 ②言い切りにせず、とちゅうで止める場合 ・「まあ、なんてきれいな－。」	
かぎ(「 」) ①会話、②書名・題名、③思ったこと、④とくにはほかの文と分けたい言葉や文をしめす場合に使います。	
横書き 左から右に書きます。 ・読点として、多くの場合、コンマ(,) を使います。	

・算用数字を使います。ただし、「一つ」「二日目」などは、漢数字を使います。

【新出漢字】

集 シュウ 集合 詩集 あつまる 広場に集まる
あつめる 切手を集める (つどう)
号 ゴウ 記号 番号
路 ロ 通学路 道路 じ 旅路 家路
横 オウ 横転 よこ 横書き

終 シュウ 終点 終日 おわる 夏が終わる
おえる 食事を終える
銀 ギン 銀行 銀色
去 キョ 去年 コ 過去 さる 雨雲が去る
筆 ヒツ 毛筆 筆記 ふで 一筆書き
式 シキ 入学式

漢字の広場② (書②)

◎2年生までに配当されている漢字を使った文を正しく作ることができる。

地図 行く 家 一本道 方角 元気 会う 親友 太い 心細い 立ち止まる 通る 谷 弓矢 当たる 天才 戸 岩 丸い
引く 光る 帰る

たのきゅう (読①)
読み聞かせ

◎読み聞かせを聞く。登場人物の行動や場面の移り変わり
【S1/S2/S3/S4】P62-63の絵を見て、どんな物語なのか予想する。
【S1/S2/S3/S4】教師の読み聞かせを聞く。

夏の楽しみ (書②)
夏の語句

●夏の行事に興味[きょうみ]をもち、夏の語句[ごく]を増やす[ふやす]。【S1/S2/S3/S4】
■短冊に文を書く。

たなばたさま 権藤はなよ・林柳波
ささの葉さらさら
のきばにゆれる
お星さまきらきら
きんきん砂子
五しきのたんざく
わたしがかいた
お星さまきらきら
空からみてる

七夕

七夕は、七月七日の夜に行う行事です。八月七日ごろに行うちいきもあります。
星まつり(七夕まつり) 天の川 おりひめ星(織女) ひこ星(牽牛)
うれしさや七夕竹の中を行く 正岡子規
星うつし ささもち あみかざり 七夕かざり ささ竹

夏まつり

ゆかた うちわ げた ぼんおどり おはやし 夜店
てのひらをかへせばすすむ踊かな 阿波野青畝

日本語(国語)【小3】 7月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小3 7月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 **[S1] 31 : 8** **[S2] 19 : 8** **[S3] 9 : 9** **[S4] 2 : 7**

ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
もうすぐ雨に（読⑥） 登場人物の行動や気持ち	◎登場人物の行動や気持ちの変化[へんか]、情景[じょうけい]。 ○場面の移り変わり 【S1】教材文を読む。 【S2/S3/S4】物語の構成「始まり」「出来事がおこる」「出来事に変化する」「むすび」
【語彙・表現】 びよんとはねた 小さな小さなかえる あみ戸とまどガラスの間の、細いすきまに入ることができるほど 子どものかえるかな びよんびよん ますますこまる。かえるも、ぼくも。 そうっと、まどとあみ戸をいっしょに動かして さっとまどだけ しめた するとかえるは、ぴくっと体をふるわせて、ぼくの顔を見たのだ。 まわりがぐるっと金色の、黒い目で。 じっと見 つめるばかり そのとたん、どこかでチリンとすずみたいな音 ひとつとび かげも形もない。 ぼく ねこのトラノスケ ちんまりすわって つぶやいたとたん 空耳かなあ。 せかせか、しっぽをふった。 足元をするりとぬけた もうす ぐ雨ってー。 電線の上には、大きなからすが止まっていた。 あんぐり口を開けた。 つぼめ お米屋さんののきうら ーいったい、どうなってるんだろう。 石の上にいたみどりがめ 休み時間 校庭のしいう小屋 チリン、チリン、チリン、 つづけざまに鳴りだした。 うさぎやにわとり わああんとはんきょうして 「もうすぐ雨にー。」 大きな黒い雲がむくむく わいていた。 ひっきりなしに鳴って 雨がふるのがうれしかったり、ゆかいだったりする にぎやかにおどったり、歌ったり 雨音にまぎれて どしゃぶり 太い雨 雨宿り うそみたいに青い空が広がった。 たっと、まどべに走っていった。 ひなたぼっこ	
【新出漢字】 持 ジ 所持品 もつ 人物の気持ち 流 リュウ 流通 流行 (ル) 庭 テイ 校庭 家庭 にわ うら庭 ながれる 雨水が流れる ながす あせを流す 急 キュウ 急行 急用 いそぐ 道を急ぐ 宿 シュク 宿題 合宿 屋 オク 屋上 屋外 や 米屋 魚屋 やど 宿屋 やどる 雨宿り やどす いのちを宿す 始 シ 開始 年始 はじめる 話し始める 全 ゼン 全部 全体 まったく 全く知らない はじまる 工事が始まる すべて 全てを話す 暗 アン 暗記 暗号 くらい 空が暗い 部 ブ 全部 部分	
「ありがとう」をつたえよう (書⑤) ていねいな言いかた	◎相手や目的[もくてき]に応じ[おうじ]、▲敬体[けいたい]と常体[じょうたい]を使い分けて手紙を書く。 手紙の型 ・「はじめのあいさつ」「本文」「むすびのあいさつ」「後づけ」 【S1/S2/S3/S4】
手紙をおくろう〈あて名の書き方〉 ・相手のじゅうしょー右がわに書く。二行になるときは、くぎりのよいところで行をかえる。 ・相手の名前ー中央に、少し大きめに書く。会社や団体に出すときには、「様」の代わりに「御中」と書く。	

- ・自分のじゅうしょと名前－はがきの場合は切手の下に、ふうしょの場合はふうとうのうらに書く。

【新出漢字】

礼 レイ お礼 失礼 (ライ) 代 ダイ 時代 代表 タイ 交代
 央 オウ 中央 かわる 当番を代わる かえる 当番を代える
 都 ト 東京都 都会 ツ 都合 みやこ 住めば都 よ 千代紙 (しろ)
 丁 チョウ 五丁目 (テイ)

漢字の広場③ (書②)

◎2年生までに配当されている漢字を使った文を正しく作ることができる。

日曜日 朝 顔 人形 室内 妹 来る 午後 半分 午前 何回 外 父 母 肉 日記 夜 思い出す 今週 弟 当番 毎日
 兄 小刀 作る 姉 楽しみ テレビ番組 行く 東京

本を使って調べよう
 里山は、未来の風景
 本の分類表 (読⑤)
 記録文や報告文

■記録文や報告文、図鑑や事典などを利用して調べる。

【S1/S2】図鑑や百科事典などの使い方を知る。

【S3/S4】目次や索引から調べる方法を知る。

図書館のくふう

あんなに図 どのに、どんな本だなやコーナーがあるかをしめしている。
 けんさく用コンピュータ さがしている本が、その図書館にあるかどうかや、どのたなにあるかななどを調べるができる。
 本だな 本のないようやしゅるいごとに、本が分けてならべられている。
 本をしょうかいするコーナー 同じ話題の本や、新しく入った本を集めて、しょうかいしている。
 図書館の人(司書) さがしている本について、相談できる。

本を使って調べる方法

事典 いろいろな物事を見出し語にして、せつめいした本。

図鑑 主に絵や写真、図などを使ってせつめいした本。

調べるとき

目次 目次は、本のはじめにある。書かれている順に見出しをならべ、始まりのページがしめしてある。

さくいん 本のはじめのほうにある。本の中に出てくる言葉や物事をぬき出して五十音順にせいりしてある。

【新出漢字】

館 カン 図書館 体育館 やかた まほうの館 緑 リョク 緑茶 (ロク) みどり 緑色 黄緑
 談 ダン 相談 会談 根 コン 大根 根気 ね 屋根 根っこ
 写 シャ 写真 うつつ 手本を写す 曲 キョク 曲線 作曲 まがる 右に曲がる
 うつつ 写真に写る まげる こしを曲げる
 真 シン 写真 真実 ま 真っ白 真夏 泳 エイ 水泳 遠泳 およぐ 魚が泳ぐ
 仕 シ 仕事場 (ジ) つかえる 王に仕える 具 グ 用具 道具
 湖 コ 琵琶湖 湖上 みずうみ 大きな湖 期 キ 定期的 期間 (ゴ)
 県 ケン 滋賀県

日本語(国語)【小3】9月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小3 9月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
わたしと小鳥とすずと 山のてっぺん (読②) 言葉の抑揚や強弱・間の取り方	言葉の抑揚[よくよう]や強弱、間の取り方などに注意して話す。 【S1】「わたしと小鳥とすずと」と「山のてっぺん」を音読する。 【S2/S3/S4】連の相互関係 二つの詩の似ているところや違うところを見つける。
わたしと小鳥とすずと 金子みすゞ	山のてっぺん 岸田衿子
わたしが両手をひろげても、 お空はちっともとべないが、 とべる小鳥はわたしのよう、 地面をはやくは走れない。	でかけてみよう はじめに一步 あとは だまって歩くだけ なんだ 山のてっぺんて ひらたいのか 何にもないな 雲がつかめると思ったのに どこへでも でかけてみると 思いがけないことがある
わたしがからだをゆすっても、 きれいな音はでないけど、 あの鳴るすずはわたしのよう、 たくさんうたは知らないよ。	さわってみよう はじめはそうっと 図鑑の中のクワガタは 怒らなかった 木の幹にしがみついている肢は こんなにねばり強い やっぱり でかけてみよう 雲と湖のあるほうへ 絵はがきの夏は うごかないから
すずと、小鳥と、それからわたし、 みんなちがって、みんないい。	
一行空きなどを入れてくぎられた詩の中のまとまりを、「連」といいます。「わたしと小鳥とすずと」は、三連の詩です。	
【新出漢字】 両 リョウ 両手 両親	
つたえよう、楽しい学校生活 インタビュー (話・聞⑤) 丁寧な言葉・適切な言葉遣い	▲ 丁寧[ていねい]な言葉など、適切[てきせつ]な言葉遣い[ことばづかい]。 【S1/S2/S3/S4】学校生活の中で紹介する話題を決めて、必要な事柄を調べたりインタビューしたりする。
インタビュー ①あいさつをして、名前を言う。	

- ②何をききに來たのかをつたえる。
 ③前もって考えておいたことを、じゅんじょよくたずねる。
 ④相手の話を注意深く聞き、分からないときは、話の区切りできき返したり、しつもんしたりする。
 ⑤大事なことはメモをとる。
 ⑥ていねいにお礼を言う。

【新出漢字】

進 シン 進行 前進 すすむ 前に進む
 すすめる 進め方
 童 ドウ 児童館 童話 (わらべ)
 反 ハン 反対 反発 (ホン) (タン)
 そる いたが反る そらす むねを反らす
 対 タイ 反対 対話 (ツイ)
 練 レン 練習 ねる こなを練る

助 ジョ 助言 たすける 人を助ける
 たすかる 運よく助かる (すけ)
 注 チュウ 注意 注文 そそぐ お茶を注ぐ
 深 シン 水深 深海 ふかい 注意深い
 ふかまる 秋が深まる ふかめる 交流を深める
 区 ク 区切り 地区

へんとつくり (伝国②)
 漢字の部首 (へん) (つくり)

★ 「へん」と「つくり」に注目して、漢字を類別[るいべつ]する。

◎漢字のへん、つくりなどの構成

【S1】「へん」「つくり」の名称と意味を理解する。

【S2/S3/S4】同じ「へん」「つくり」の漢字を集める。

漢字には、右と左の二つの部分に分けられるものがあります。

「言」のように、漢字の左がわにあって、おおまかな意味を表す部分を「へん」といいます。「言」は、「ごんべん」といいます。

きへん 板(鉄板・羽子板) 柱(電柱・柱時計)
 にんべん 住(住所・住まい) 係(関係・図書係)
 さんずい 油(油田・油絵) 港(開港・港町)

漢字の右がわにおかれる部分を、「つくり」といいます。つくりが、おおまかな意味を表すこともあります。

【新出漢字】

係 ケイ 関係 かかる 主語に係る かかり 図書係
 板 パン 鉄板 バン 黒板 合板 いた 板の間
 柱 チュウ 電柱 鉄柱 はしら 柱時計

住 ジュウ 住所 住人 すむ 町に住む
 すまう 古い住まい
 油 ユ 油田 石油 あぶら 油絵
 港 コウ 開港 空港 みなと 港町

送りがな

日本語(国語)【小3】10月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小3 10月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
ローマ字 (伝国④) ローマ字①	★ ローマ字 で表記されたものを読んだり書いたりする。 【S1】 ローマ字表記について知る。 【S2】 五十音のアルファベットの配列を理解する。 【S3】 清音、濁音、拗音、長音、促音、撥音の表記を練習する。 【S4】 大文字と小文字の違い 書き方が二つあるもの
【新出漢字】 員 イン 全員 店員 身 シン 自身 上半身 み 身の回り	
ちいちゃんのかげおくり (読⑩) 場面の移り変わり	◎場面の移り変わり に注意しながら読み、人物の行動、情景、会話などの表現に着目して読む。 【S1】 教材文を読む。 【S2/S3/S4】 場面の移りわりをつかむ。
【語彙・表現】 ちいちゃん お父さん 出征する前の日 お兄ちゃん お母さん 先祖のはかまいり 帰り道 かげぼうし ちいちゃんとお兄ちゃんを中にして、四人は手をつなぎました。 「まばたきしちゃ、だめよ。」 目の動きといっしょに、白い四つのかげぼうしが、すうっと空に上がりました。 記念写真 白いたすき 日の丸のはたに送られて いくさ しょういだんやばくだんをつんだひこうき くうしゅうけいほうのサイレン ほのおのうずが追いかけてきます。 はぐれちゃだめよ たくさんの人に追いぬかれたり、ぶつかったり、 朝になりました どこがうちなのか はすむかいのうちのおばさん ぎつのうの中に入れてあるほしいい ぼうくうごう くもった朝が来て、昼がすぎ、また、暗い夜が来ました。 ちいちゃんは、暑いような寒いような気がしました。 ふらふらする足をふみしめて立ち上がると 体がすうっとすきとおって、空にすいこまれていく一面の空の色 空色の花ばたけの中 見回しても、見回しても、花ばたけ ちいちゃんは、きらきらわらいだしました。 夏のはじめのある朝、こうして、小さな女の子の命が、空にきえました。 それから何十年 青い空の下、今日も、お兄ちゃんやちいちゃんぐらいの子どもたちが、きらきらわらい声を上げて、遊んでいます。	
場面のうつりかわり ▼一行空きによって場面が分かれ、第一と第四の場面に、「かげおくり」の様子がえがかれています。 ▼二つの「かげおくり」の間には、どんな出来事があったでしょう。 ▼第五場面があるのとないのとは、どちらがうと思いますか。 ・なぜかというと、一。 ・理由は、一。 ・一だからです。	
言葉 ▼動作を表す言葉には、にているようでも、ちがう意味を表すものがあります。 ・「見る」に関係のある言葉 <れい> 見上げる 見つめる ・「言う」に関係のある言葉 <れい> つぶやく きき返す	

【新出漢字】 感想 カン 感想 感じる 理想 ソウ 理想 理想 (ソ) 送 ソウ 配送 放送 おくる 手紙を送る 列 レツ 列車 行列 乗 ジョウ 乗客 乗車 のる 列車に乗る のせる 客を束せる 追 ツイ 追究 おう 追いかける 血 ケツ 出血 止血 ち 血が出る	橋 キョウ 歩道橋 鉄橋 はし 橋の下 暑 ショ 暑中みまい あつい 暑い夏 寒カン 寒気 さむい 寒い冬 寒空 陽 ヨウ 太陽 陽気 軽 ケイ 軽食 かるい 軽いかばん (かるやか) 命 メイ 命中 生命 (ミョウ) いのち 短い命 第 ダイ 第一
漢字の広場④ (書②)	◎ 2年生までに配当されている漢字を使った文を正しく作ることができる。
家 北 天文台 活気 市場 自動車 近所 新しい 東 寺 古い 交番 西 点数 走る 広場 南 線路 公園	
修飾語 (伝国②) 文の組み立て (かざりことば)	★ 修飾[しゅうしょく]と被修飾[ひしゅうしょく]との関係[かんけい]。 【S1】修飾語の働き 修飾語によって、文の内容が詳しくなること 【S2】教科書の一文を、主語・述語・修飾語に分ける。 課題に取り組む。
修飾語ー「いつ」「どこで」「どこ(だれ・何)の」「どんな」「何を」「だれに」「どのくらい」「どのように」に当たる言葉	
【新出漢字】 州 シュウ 九州 (す) 荷 (カ) に 荷物 美 ビ 美声 美化 うつくしい 美しい花	客 キャク 来客 観客 (カク) 君 クン 君主 きみ ぼくと君 打 ダ 打球 打楽器 うつ ボールを打つ
秋の楽しみ (書②) 秋の言葉	◎ 「秋」の行事に興味をもち、それに関わる語句を増やす。【S1/S2/S3/S4】 ● 秋の言葉「○○の秋」
【語彙・表現】 「○○の秋」ー「実りの秋」「スポーツの秋」「しよくよくの秋」など 月夜 月見かざり 月見だんご 夜長 月見 月見は、だんごやすすき、里いもなどをそなえて、月をながめて楽しむ行事です。 うさぎ うさぎ うさぎ なに見てはねる 十五夜お月さま 見てはねる 中秋の名月 いも名月 十五夜(むかしのこよみで、八月十五日の夜)の月。 後の月 くり名月 十三夜(むかしのこよみで、九月十三日の夜)の月。 名月を取つてくれろとなく子かな 小林 一茶 秋の七草 秋の七草は、秋にさく、代表的な草花です。 はぎ くず すすき おみなえし ききょう ふじばかま なでしこ	

日本語(国語)【小3】 11月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小3 11月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
すがたをかえる大豆 絵や写真を使ってせつめいする (読⑥) 段落相互の関係	◎段落[だんらく]相互[そうご]の関係[かんけい]を考えながら、文章の内容[ないよう]を理解[りかい]する。 【S1/S2】 段落構成に着目して、教材文を読む。 「初め」「中」「終わり」 【S3/S4】 文章全体の組み立てや段落ごとの書き方に注意する。
【語彙・表現】 大豆 めん類 米、パン 肉・やさい 大豆は、ダイスという植物のたね さやの中 手をくわえて いったり、に たり いると、豆まきに使う豆 にると、に豆 こなにひいて食べる 一ばん水にひたし、なめらかになるまですりつぶしま す しぼり出します にがり ナットウキン むした大豆 コウジカビ みそやしょうゆ えだ豆 もやし 畑の肉 やせた土地 昔の人々のちえ せつめいのくふう はじめ これからせつめいする話題を、おおまかにしめしている。 中 「はじめ」にしめた話題について、具体的なれいをあげて、せつめいしている。 終わり 全体をまとめている。	
【新出漢字】 取 シュ 取材 とる 取り上げる 化 カ 消化 文化(ケ) 豆 トウ 豆乳 ズ 大豆 まめ 豆まき 黒豆 ばける 人に化ける ばかす 人を化かす 植 ショク 植物 うえる 木を植える 昔 (セキ) (シャク) むかし 昔話 うわる 校庭に植わった 畑 はた 田畑 畑作 はたけ 花畑 育 イク 体育館 教育 そだつ ダイスカ育つ 者 シャ 筆者 作者 もの 人気者 そだてる 子犬を育てる はぐくむ ゆめを育む 整 セイ 整理 調整 消 ショウ 消化 消火 ととのえる 形を整える ととのう 室内が整う きえる 火が消える けす 電気を消す	
食べ物のひみつを教えます (書⑧) 段落「初め」「中」「終わり」	○「初め」「中」「終わり」の構成を意識し、「中」の事例を絵と組み合わせながら段落[だんらく]に分けて書く。 【S3/S4】
短歌を楽しもう (伝国①) 短歌	★ 短歌を音読し、文語の調子(日本語特有のリズム)に親しむ。 【S1/S2/S3/S4】 短歌について知る。 「五・七・五・七・七」の三十一音
むしのねも のこりすくになりにけり よなよなかぜの さむくしなれば 良寛 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる 藤原敏行 奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の声聞く時ぞ秋は悲しき 猿丸大夫	

漢字の意味（伝国②）

◎同じ発音で意味の違う漢字

【S1/S2/S3/S4】

同音異義語

【S1】人形に花をつける。【S2】人形に鼻をつける。

・はははははじょうぶです。 ・母は歯はじょうぶです。

【新出漢字】

鼻（ビ） はな 鼻歌 鼻血
 歯 シ 歯科 は きれいな歯
 階 カイ 二階 階下
 旅 リョ 旅行 旅館 たび 旅人
 委 イ 委員会 ゆだねる 代表者に委ねる
 級 キュウ 学級 上級生
 昭 ショウ 昭和

和 ワ 昭和 平和 （オ） （やわらぐ）
 （やわらげる） （なごむ） （なごやか）
 駅 エキ 駅前
 業 ギョウ 作業 農業 （ゴウ） （わざ）
 皮 ヒ 表皮 皮肉 かわ 皮むき
 皿 さら 皿あらい

三年とうげ（読⑥）
 民話や昔話

物語の組み立て、登場人物の気持ちの変化[へんか]や情景[じょうけい]。

【S1/S2/S3/S4】民話や昔話独特の語り方を知り、語句を増やす。

【語彙・表現】

あるところ あまり高くない、なだらかなとうげ 春 すみれ、たんぽぽ、ふでりんどう とうげからふもとまで れん
 げつつじのさくころ ため息の出るほど、よいながめ 秋 かえで、がますみ、ぬるでの葉。 美しく色づきました。 白
 いすすきの光るころ だれだつてため息の出るほど、よいながめ こんな言いつたえ 「三年とうげで 転ぶでない。 おそろ
 おそろ歩きました。 ある秋の日のこと 一人のおじいさん 反物 三年とうげにさしかかりました 白いすすきの光るこ
 ろ こしを下ろして ひと息入れながら 美しいながめに うっとり 日がくれる お日様が西にかたむき タやけ空
 かだんだん暗くなりました おしいさんは真っ青になり 家にすっとなでいき おばあさんにしがみつき、おいおいなきました
 じゅみょう ふとんにもぐりこみ お医者をよぶやら、薬を飲ませるやら つきっきりで看病 水車屋のトルトリ み
 まい わざとひっくり返り ころりん、ころりん、すってんころり、ぺったんころりん、ひょいころ、ころりんと、 けろけろ
 けろっとした顔 歌ったのは、だれだったのでしょうか

【新出漢字】

息 ソク 消息 安息 いき ため息 鼻息
 転 テン 回転 転校 ころがる 球が転がる
 ころげる 転げ落ちる ころがす 球を転がす
 ころぶ 山道で転ぶ
 病 ビョウ 病気 重病 （ヘイ） （やむ）
 やまい 病は気から
 医 イ 医者 医学
 薬 ヤク 薬品 薬局 くすり 目薬 かぜ薬
 飲 イン 飲食 のむ 薬を飲む
 起 キ 起立 おきる はね起きる
 おこる 火事が起こる おこす 体を起こす

重 ジュウ 体重 重大 チョウ 軽重 貴重 （え）
 おもい うでが重い かさねる さらに重ねる
 かさなる 用事が重なる度 ド 一度 今度 （ト） （タ
 ク） （たび）
 死 シ 死者 生死 しぬ 病気で死ぬ
 幸 コウ 幸福 さいわい 幸い元気だ （さち）
 しあわせ 幸せにくらす
 向 コウ 方向 向上 むく 前を向く
 むける 目を向ける むかう 公園へ向かう
 むこう 道の向こう

日本語(国語)【小3】12月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小3 12月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
たから島のぼうけん (書⑧) 句読点や改行	◎「初め」「中」「終わり」の組み立て ★句読点[くどうてん]や改行[かいぎょう]。 【S1】教材文を読む。 【S2/S3/S4】文字や句読点の位置、文章表現に気をつけながら、推敲する
【語彙・表現】 川や火山、おそろしい動物などのきけんが待ち受けています	
物語を書くときに考えること ・時・場所・人物・出来事(事件) ・いつ、だれが、どこで、何をしたのかを書く。 ・「中」で、どのような出来事が起こり、それをどのように解決するのかを書く。 ・大事な場面は、登場人物の気持ちや会話なども、くわしく書く。 ・題名をくふうする。 物語を書いたら、次のことに気をつけて読み返しましょう。 ・読み手に、ないようが分かりやすくつたわる文になっているか。 ・文字のまちがいはないか。	
【新出漢字】 島 トウ 半島 列島 しま たから島 拾 (シュウ) (ジュウ) ひろう びんを拾う 待 タイ 期待 まつ 待ち受ける 守 シュ 守備 ス 留守番 まもる 決まりを守る 受 ジュ 受信 うける 待ち受ける (もり) うかる 試験に受かる	
漢字の広場⑤ (書②)	◎2年生までに配当されている漢字を使った文を正しく作ることができる。
国語 聞く 発言 話し合い 社会 知る 新聞 考える 算数 計算 教える 答える 音楽 歌声 図画工作 絵 切る 画用紙 読書 理科 回路 かん電池 日直 黒板	
言葉を分類する (書②、伝国②) 言葉の分類	◎言葉の性質に着目して、言葉を分類できる。 性質[せいしつ]や役割[やくわり]のうえでの★語句[ごく]の類別[るいべつ] 【S1/S2/S3/S4】「動きを表す言葉」「様子を表す言葉」「物や事を表す言葉」
同じとくちょうをもつもののどうしをまとめると、全体をいくつかの集まりに分けることができます。これを、分類といいます。	

分類のしかた

動きを表す言葉……立つ すわる 書く 投げる 走る 守る

様子を表す言葉……うれしい くやしい 赤い 青い 悪い 悲しい 大きい

物や事を表す言葉……学校 ノート 音楽会 ボール 遠足

言葉には、さまざまな分け方があります。言葉を分類すると、使い方や意味のちがいがよく分かります。

1 次の文の□には、どんな言葉が当てはまるでしょうか。そして、その言葉が、「動きを表す言葉」「様子を表す言葉」「物や事を表す言葉」のどれかを考え、()にアからウの記号を書きましょう。

①申しこみ用紙に名前を□……()

②この薬は□……()

③□が二倍にふえた。……()

④書店で本を□……()

⑤今日は気温が□……()

⑥でこぼこした□を平らにする。……()

⑦□花がさく。……()

⑧□のしあいで負ける。……()

【 買う 書く 美しい ひくい にがい 地面 入場者 サッカー 】

ア動きを表す言葉

イ様子を表す言葉

ウ物や事を表す言葉

【新出漢字】

悪 アク 悪人 悪用 (オ) わるい きまりが悪い

悲 ヒ 悲鳴 かなしい 悲しい物語

かなしむ 死を悲しむ

投 トウ 投手 投書 なげる 球を投げる

申 (シン) もうす 申しこみ用紙

倍 バイ 二倍 何倍

平 ヘイ 水平線 太平洋

たいら 平らにする

負 フ 勝負 まける

まかす 言い負かす

ビョウ 平等

ひら 平泳ぎ

試合に負ける

おう きずを負う

冬の楽しみ (書②)

● 冬を表現[ひょうげん]する語句[ごく]。 【S1/S2/S3/S4】

【語彙・表現】

おせち 書きぞめ ぞうに 羽子板 たこあげ

正月 初日の出 元日 一年の計は元旦にあり 初ゆめ 一ふじ 二たか 三なすび 三が日

加留多とる皆美しく負けまじく 高浜虚子

春の七草 せり なずな ごぎょう はこべら ほとけのざ すずな すずしろ

節分 おには外 ふくは内 豆まき

わがこゑののこれる耳や福は内 飯田蛇笏

日本語(国語)【小3】 1月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小3 1月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
雪 (読②、書②) 比喩・繰り返し	比喩[ひゆ]や繰り返し[くりかえし]の表現[ひょうげん] 【S1/S2/S3/S4】言葉の響きやリズムなどから様子を想像し、それが表れるように音読する。
雪 三好達治 太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪ふりつむ。 次郎を眠らせ。次郎の屋根に雪ふりつむ。 ゆき 草野心平 しんしんしんしん しんしんしんしん しんしんしんしんゆきふりつもる しんしんしんしんゆきふりつもる しんしんしんしんゆきふりつもる しんしんしんしんゆきふりつもる しんしんしんしん しんしんしんしん 雪 山村暮鳥 きれいな きれいな 雪だこと 畑も 屋根も まっ白だ きれいでなくって どうしましょう 天からふってきた雪だもの	

ありの行列 (読⑦)
指示語・接続語

◎実験と考察に注意しながら各段落の内容を読み取る。

【S1】教材文を読む。

【S2/S3/S4】指示語や接続語に注意しながら段落の内容をつかむ。

【語彙・表現】

夏になると 庭や公園のすみなど なぜ、ありの行列ができるのでしょうか。 ありの様子をかんさつ
はじめに ありの巣から少しはなれた所に、ひとつまみのさとうをおきました。
すると、巣の中から、たくさんのはたらきありが、次々と出てきました。
次に この道すじに大きな石をおいて、ありの行く手をさえぎってみました。 石の所でみだれて、ちりちりになってしまいま
した。 ようやく、一ぴきのありが、石の向こうがわに道のつづきを見つけました。 そして、さとうに向かって進んでいきまし
た。
これらのかんさつから 地面に何か道しるべになるものをつけておいたのではないか
そこで はたらきありの体の仕組みを、細かに研究してみました。
すると ありは、おしりのところから、とくべつのえきを出すことが分かりました。
この研究から ありの行列のできるわけを知ることができました。
このように においをたどって、えきの所へ行ったり、巣に帰ったりするので、ありの行列ができるというわけです。

言葉

・すると、ありは、おしりのところから、とくべつのえきを出すことが分かりました。それは、においのある、じょうはつしやすいえ
きです。(81ページ8行目)

▼「ありの行列」から、こそあど言葉をさがして、どの部分を指ししめしているかをたしかめましょう。

【新出漢字】

他 タ 他人 その他 ほか 他のもの
研 ケン 研究 (とぐ)
究 キュウ 研究 (きわめる)

しりょうから分かる、小学生
のこと 見せながら話すとき
には (話・聞⑦)
間の取り方

◎相手を見て、大事な部分や言葉を強調したり、間の取り方に注意したりして話す。【S1/S2/S3/S4】

▲適切[てきせつ]な言葉遣い[ことばづかい]で筋道[すじみち]を立てて話す。

見せながら話すときには

発表するとき、実物やまとめたものを見せながら話すと、聞き手にとって分かりやすくなります。何かを見せながら話すときは、次
のようなことに気をつけましょう。
・何を見せるのかー実物や写真、グラフなどの「見せるもの」は、話のないように合ったものにしましょう。
・いつ、どのように見せるのかーいつ、どのくらいの時間、見せるとよいかを考えましょう。また、みんなに見えるように、大きさを
考えて、しりょうを用意しましょう。

【新出漢字】

球 キュウ 野球 地球 たま 球を投げる

日本語(国語)【小3】2月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小3 2月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
コンピュータのローマ字入力 (伝国②) ローマ字②	◎ローマ字でコンピュータに言葉を入力することができる。 【S1/S2/S3/S4】 設問に提示された単語をコンピュータに入力し、ローマ字入力に慣れる。
【新出漢字】 波 ハ 電波 なみ 波が高い 勉 ベン 勉強 勉学 放 ホウ 放送 放出 はなす 魚を放す はなつ 矢を放つ はなれる 放れ馬 ほうる 放り投げる	
カンジーはかせの音訓かるた (伝国②) 送り仮名 漢字の音訓	◎3年生で学習する漢字を読むことができる。(伝国(1)ウ(イ)) 【S1/S2/S3/S4】 送り仮名に注意し、漢字の音訓についての意識をもつことができる。
・千代紙で 千羽のつるを おりました ・目の前を 第一走者 走りぬけ ・石炭は もえるふしぎな 黒い石 ・運転を 終えたら車庫に 車入れ ・羊毛が ふわふわしてる 羊さん ・にらめっこ 勝負に勝った うれしいな ・上等な ケーキ等しく 切り分ける ・自転車の 速度速める 待ち合わせ ・日記帳 三日ぼうずは そつぎょうだ ・宮大工 大きな寺院 しゅうりする ・口笛を ふくと遠くで 汽笛鳴り ・海岸で 海を見ながら 大あくび 〈作り方〉 ①どの漢字を使うかを決める。 ②漢字の読み方一つ一つについて、その読み方を使った言葉を集める。 ③音読みを使った言葉と、訓読みを使った言葉の一つずつ使って、ひとつながりの文を考える。 ④リズムを整えて、かんせい。	

【新出漢字】

炭 タン 石炭 すみ 炭火 炭やき
 運 ウン 運転 運動 はこぶ 荷物を運ぶ
 庫 コ 車庫 金庫 (ク)
 羊 ヨウ 羊毛 ひつじ 羊を数える
 等 トウ 上等 等分 ひとしい 長さが等しい
 速 ソク 速度 時速
 はやい 速くこぐ はやめる 速度を速める
 はやまる 速度が速まる (すみやか)

勝 ショウ 勝負 かつ 試合に勝つ (まさる)
 帳 チョウ 日記帳 手帳
 宮 キュウ 宮でん 王宮 (グウ) (ク)
 みや 宮大工
 院 イン 寺院 病院
 笛 テキ 汽笛 ふえ 口笛 たて笛
 岸 ガン 海岸 対岸 きし 川岸

ことわざについて調べよう
 (書⑭)

★ **ことわざや故事[こじ]成語**の意味を知る。
 【S1/S2/S3/S4】 日本語力に応じたことわざや故事成語の意味を知る。

【語彙・表現】

生きていくうえでのちえや教えを、短い言葉や言い回しで表したものを、「ことわざ」といいます。

おびに短したすきに長し
 頭かくしてしりかくさず
 さるも木から落ちる
 犬も歩けばぼうに当たる
 所かわれば品かわる
 ねこの手もかりたい
 やなぎの下にいつもどじょうはいない
 わかいときの苦勞は買ってもせよ
 わが身をつねって人のいたさを知れ

同じとくちょうをもつことわざ

出てくるものに着目する
 ・動物 ・数字 ・食べ物 ・虫
 表現のとくちょうに着目する
 ・くり返し ・たとえ ・組み合わせ
 意味に着目する
 ・教訓 ・にた意味 ・反対の意味

【新出漢字】

福 フク 幸福
 苦 ク 苦勞 苦心 くるしい 暑苦しい
 くるしむ 病気で苦しむ くるしめる 心を苦しめる
 にがい 苦いコーヒー 苦り切った顔

役 ヤク 役立つ 役所 (エキ)
 予 ヨ 予想 予定

日本語(国語)【小3】 3月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小3 3月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
漢字の広場⑥ (書②)	◎2年生までに配当されている漢字を使った文を正しく作ることができる。
【語彙・表現】 春 晴れ 鳥 風 野原 昼ごはん 明るい 食べる 夏 雲 魚 岩 体そう 船 海 麦茶 秋 遠い 汽車 山里 歩く 米 冬 夜空 星 雪 毛糸	
モチモチの木 (読⑫、書①) 接続語	◎登場人物の行動や会話から、人物の人柄や気持ちを捉えて読むことができる。 文と文の意味のつながりを考えながら、 接続語[せつぞくご] を使う。 【S1】 教材文を読む。 【S2】 登場人物の人柄や気持ちをつかむ。 【S3】 文と文をつなぐ接続詞の使い方を知る。 【S4】 たとえを使った文を書く。
【語彙・表現】 おくびょう豆太 もう五つにもなった セっちゃん 夜中 一人じゃしょうべんもできない じさま 豆太のおとう く まと組みうち きもすけ じさま 青じしを追っかけて、きもをひやすような岩から岩へのとびうつり 見事にやってのける それなのに、どうして豆太だけが、こんなにおくびょうなんだろう。 モチモチの木ってのはな、豆太がつけた名前だ。 茶色いぴかぴか光った実 石うすでひいてこな もちにこね上げ 昼間はいばってさいそくしたりするくせに、夜になると、豆 太はもうだめなんだ。 夜のモチモチの木 ションベンなんか出なくなっちゃう。 とこの中がこうずいになっちゃう 霜月 二十日のばん モチモチの木に、今夜は、灯がともるばん うしみつ 一人の子どもしか、見ることはできねえ。それも、勇気 のある子どもだけ こんな冬の真夜中に、モチモチの木を、それも、たった一人で見に出るなんて、とんでもねえ話だ。ぶるぶるだ。 よいの口からねてしまった 真夜中 じさま くまみたいに体を丸めてうなっていた 歯を食いしばって、ますますすご くなるだけ 豆太 表戸を体でふっとばして走りだした。 ねまきのまんま。はだしで。 足からは血が出た。 なきなき 走った。いたくて、寒くて、 こわかったからなあ。 大すきなじさまの死んしまうほうが、もっとこわかった 年よりじさまの医者様 ねんねこぼんてん この冬はじめての雪 医者様のこしを、足でドンドンけとばした。 もう一つふしぎなもの モチモチの木に、灯がついてい る 医者様のてつだいをして、かまどにまきをくべたり、湯をわかしたり 人間、やさしささえあれば、やらなきゃならねえこと は、きっとやるもんだ。	
登場人物の人がらや気持ち ▼「豆太」と「じさま」は、どんな人物だと思いますか。それぞれの場面での、二人の会話や行動を整理しましょう。 ▼「モチモチの木」では、だれかが物語を語っているように、地の文が書かれています。語り手は、「豆太」の人がらを、どう思ってい	

るでしょう。それは、どこから分かりますか。

▼「霜月二十日のぼん」の場面の「豆太」と、「豆太は見た」の場面の「豆太」をくらべてみましょう。どんなところがちがいますか。

▼モチモチの木について、「医者様」の言ったこと(114ページ2行目)と、「じさま」の言ったこと(114ページ11行目)をくらべてみましょう。それぞれの言ったことについて、どう思いますか。

書いてみよう

「まるで」「ーみたいだ」「ーようだ」などの言葉を使つてたとえと、人物や物の様子を分かりやすく表すことができます。「モチモチの木」には、次のような、たとえを使った文が出てきます。

・まくら元で、くまみたいに体を丸めてうなっていたのは、じさまだった。(109ページ目11行目)

・まるで、灯がついたようだ。(114ページ2行目)

「まるで」「ーみたいだ」「ーようだ」などの言葉を使わずにたとえることもあります。

・霜が足にかみついた。(111ページ1行目)

▼たとえを使って、短い文を書きましょう。

〈れい〉

・まるで、わたあめみたいな雲が、空にうかんでいる。

・このウサギの毛は、雪のように白い。

【新出漢字】

神 シン 神話 ジン 神社 かみ 神様 (かん)
(こう)

祭 サイ 文化祭 まつる 祖先を祭る
まつり 日本の祭り

坂 (ハン) さか 坂道 上り坂
箱 はこ 薬箱 筆箱
湯 トウ 熱湯 ゆ 湯をわかす

わたしの三大ニュース(書②)
句読点

○理由や事例を挙げながら、書くことができる。

【S1】教材文を読む。

【S2/S3/S4】句読点を適切に使い、段落の始めを改行することができる。

この一年間で、たくさんの出来事がありましたね。どんなことがありましたか。三年生の生活をふり返り、あなたの三大ニュースを書きましょう。

- ・学んだこと
- ・できるようになったこと
- ・出会った人や物
- ・発見したこと など

「 」と『 』のちがい

言葉のたから箱

どんな人物かを表す言葉

陽気	すなお	おこりっぽい
ほがらか	おとなしい	いばる
がんばり屋	りこう	おくびょう
まじめ	いさましい	
のんびり	負けずらい	

どんな物や事がらかを表す言葉

役立つ	とくべつ	－のよう
大切	美しい	－と(に)等しい
ていねい	ごうか	－とことなる
はっきり	有名	－と反対
十分	不十分	－とぎやく
分かりやすい	分かりにくい	

気持ちを表す言葉

さわやか	決意	きんちょう
ゆかい	決心	はずかしい
気分がいい	ひっし	まよう
きげんがいい	本気	はらが立つ
まんぞく	じまん	かっとなる
ほっとする	じしん	頭にくる
落ち着く	てれる	落ち着かない
元気づけられる	てれくさい	あせる
待ち遠しい	きょうみをもつ	不安
なつかしい	こうふん	心細い
ありがたい	意外	つらい
かんしゃ	あきらめる	はんせい
かんげき	気分が悪い	

学習に用いる言葉

話したり聞いたりする学習で用いる言葉

【インタビュー】人に会って、知りたいことについて話をきくこと。 →上115ページ

本で調べたり書いたりする学習で用いる言葉

【目次】本のはじめにあって、ないようの見出しがページじゅんにならべてあるもの。 →上91ページ

【さくいん】本の中にある言葉や事物が、どのページにあるかをしめしているもの。 →C上91ページ

【引用】本などに書かれていることを、文章や話の中で用いること。 →下116ページ

読む学習で用いる言葉

【場面】物語の中で、人物のすることやまわりの様子が、ひとまとまりになっている部分。 →上12ページ

【登場人物】物語の場面に出てくる人物のこと。 →上12ページ

【会話文と地の文】かぎ「 」でしめしている人物の言葉を会話文といい、他のところを地の文という。 →下116ページ

【段落】文章の中での、事がらごとのないようのまとまり。はじめを一字下げて表す。 →上40ページ

「言葉」の学習で学んだ言葉

【こそあど言葉】「これ」「それ」「あれ」「どれ」など、物事や場所、方向などを指ししめす言葉。文章中で、前後に出てくる言葉や文を指すこともある。 →上38ページ

【修飾語】「いつ」「どこで」「だれと」「何を」や、「どれくらい」「どのように」「どんな」「何の」のような、文の意味をくわしく定める言葉。 →下26ページ

知ると楽しい「故事成語」

昔の中国の話がもとになってできた言葉を、故事成語といいます。故事成語は、今もわたしたちの生活の中に生きつづけています。

蛇足

意味

ひつようなのないものをくわえることで、全体をだめにしてしまうこと。

言葉の由来

だれが蛇の絵をいちばん早くかけるか、きょうそうした。はじめにかきあげた人が、他の人がまだかいているのを見て、調子に乗って、あまった時間で蛇に足をかき足した。すると、「蛇に足はないJと言われて負けてしまった。

五十歩百歩

意味

多少のちがいはあるものの、大きなちがいではないこと。

言葉の由来

孟子という人物が、自分の国をよくおさめているつもりの王様に、「たたかいの場から五十歩にげた兵が、百歩にげた兵をわらうことができるか。」というたとえ話をし、自分の国も他の国とあまりかわらないことに気づかせた。

漁夫の利

意味

二人があらそっている間に、他の人が苦勞せずにとくをすること。

言葉の由来

蘇代という人物が、ある国をせめようとしている王様に、「貝の肉を食べようとした鳥のくちばしを、貝がはさんだ。たがいにゆずらずにいたところにりょうしが通りかかり、両方をつかまえた。」というたとえ話をし、せめることを思いとどまらせた。

「たいせつ」のまとめ

『話す・聞く』

よい聞き手とは →三年上

- ・話の中心に気をつけて聞く。
- ・自分だったらどうかと考えたり、自分の知っていることとつなげたりして聞く。
- ・話し手が話したいことにそったしつもんやかんそうを言う。 など

話し合いにさんかするときは →三年上

- ・指名されてから話す。
- ・自分の考えと、そう考えた理由を言う。
- ・友だちの意見と同じところ、ちがうところをはっきりさせて、意見を言う。 など

司会をするときは →三年上

- ・何について話し合うかと、話し合う手順をたしかめる。
- ・発言する人を指名したり、順番を決めたりする。
- ・ところどころで、意見をせいりする。 など

しりょうをもとに発表する →90ページ

- ・話題をはっきりさせる。
- ・しりょうのどの部分から、何が分かったのかをはっきりさせる。
- ・聞き手にしりょうを見てもらうときは、そのための時間を取ったり、見てほしいところを指ししめしたりする。
- ・しりょうから分かることと、自分が思ったことや考えたことを分けて話す。

『書く』

ざいりょうを集めてほうこくする文章を書く →三年上

- ・調べたことをほうこくする文章は、次のような組み立てで書く。
調べたきっかけや理由/調べ方/調べて分かったこと/かんそう

手紙でつたえる →三年上

- ・手紙は、次のことをはっきりさせて書く。
だれにつたえるのか。/どんなことをつたえるのか。/どんな言葉づかいにすればよいか。

分かりやすい文章を書く →43ページ

- ・ないようのまとまりごとに、段落を分ける。
- ・れいをあげて書くと、読み手にないようが分かりやすくなる。

「はじめ」「中」「終わり」の組み立てで物語を書く →66ページ

- ・物語は、次のような組み立てで、ないようを考えて書く。
はじめー物語の始まり。(時・場所・人物) 中ー出来事(事件)とその解決。
終わりー物語のむすび。(登場人物はどうなるのか)

本で調べて書く →102ページ

- ・目次やさくいんを活用して本を使って調べ、分かりやすく書く。
- ・どの本で調べたかが後で分かるように、筆署名(かんしゅう者名)・書名・出版社名・発行年をきろくする。

『読む』

物語・読書

場面のようすがつたわるように音読する →三年上

- ・登場人物のいる場所や動き、聞こえる音などに気をつけて、場面のようすを思いうかべる。
- ・声の強弱や高さ、読むはやさ、間のとり方などに気をつけて読む。

「出来事」に気をつけて読む →三年上

- ・物語を読むときには、「出来事」に気をつける。
どんな出来事がおこったのか。/その出来事がおこったきっかけは何か。/その出来事は、物語の中でどんなやくわりをしているか。/
出来事がおこる前と後とで、何かかわったか。

本を使って調べる →三年上

- ・図書館では、あんない図や本の分け方などを手がかりに、本をさがすことができる。
- ・目次やさくいんは、本のどこに知りたいことが書かれているかをさがす手がかりになる。

場面のうつりかわりを読む →24ページ

- ・場面を追うごとに、どんな出来事があり、何かわるのかを考えながら読む。
- ・文章に書かれていなくても、その間にすぎた時間や、あったことなどをそうぞうする。

おもしろいと思うところを見つけながら読む →62ページ

- ・次のことに目を向けて読むとよい。
登場人物の言動や人がら/時代や場所/大きな出来事、ふしぎなことや意外なこと/場面のうつりかわり/言葉の使い方や文章の調子/心
にのこる言葉や文、さし絵 など

登場人物の人がらや気持ちを考える →118ページ

- ・会話文や地の文に着目すると、人物の人がらや気持ちがとらえやすくなる。 など

せつめいしている文章

段落とまとまり →三年上

- ・文章は、ふつう、「はじめ」「中」「おわり」の大きなまとまりに分かれている。
- ・一つ一つの段落には、それぞれ、ひとまとまりのないようが書かれている。

せつめいの中心になる言葉や文をとらえる →38ページ

- ・段落の中で、中心になる言葉や文を見つけるときは、くり返し出てくる言葉や、問い・題名とつながりのある言葉などに気をつける。

考えの進め方をとらえて読む →86ページ

- ・「問い」や、「はじめ」に書かれていることから、何についての文章なのかを知る。
- ・段落ごとに書かれているないようをたしかめる。
- ・こそあど言葉や、文章のつながりを表す言葉に気をつけて、段落どうしがどのようなにつながっているかを考える。
- ・実験やかんさつなど、調べたことと、そこから考えたことに気をつけて読む。